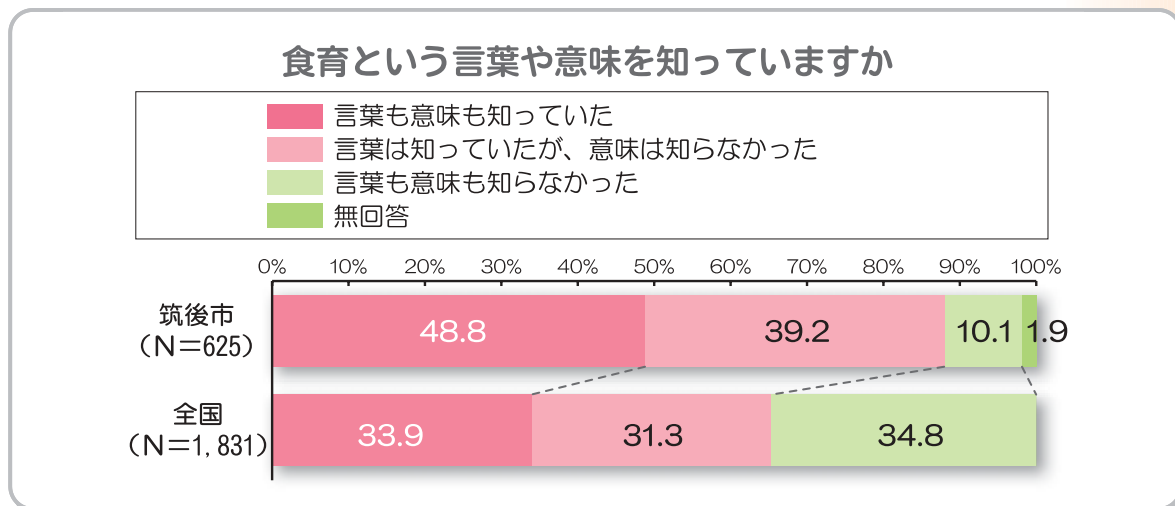


Ⅱ 食をめぐる現状と課題

1 食育に関する意識

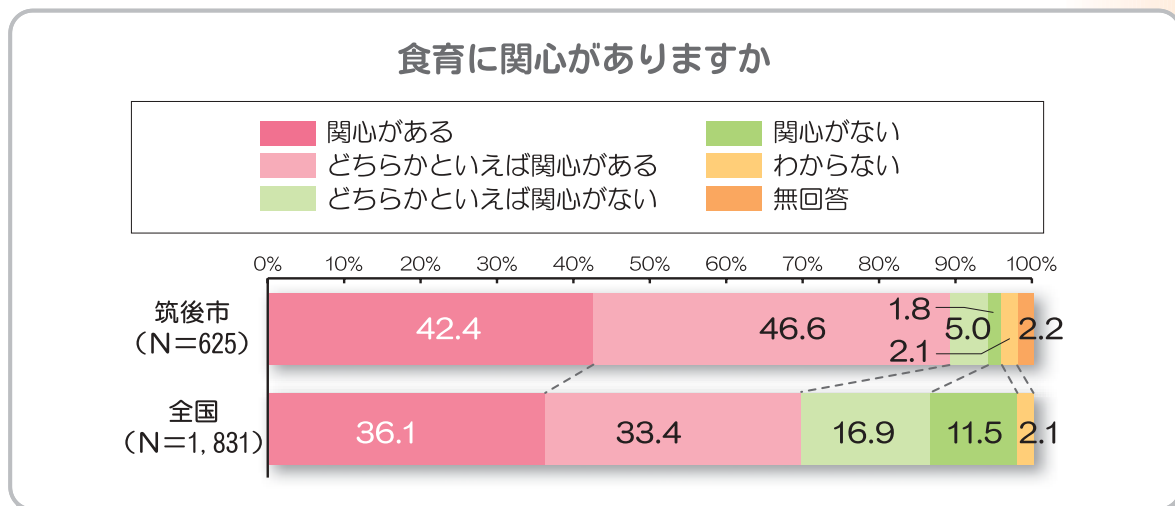
(1) 食育の認知度



(H19.8 筑後市食育に関するアンケート 健康づくり課)

「食育」という言葉はすでによく耳にする言葉で、88.0%の人が認知していますが、意味まで知っている人は約半数（48.8%）です。「食育」とはどういうものなのか、なぜ「食育」に取り組む必要があるのか啓発していく必要があります。

(2) 食育への関心度



(H19.8 筑後市食育に関するアンケート 健康づくり課)

「食育」への関心度については、「どちらかといえば関心がある」まで合わせると“関心がある”人は約9割（89.0%）を占めています。

「食育」に関心がある理由としては、「子どもの心身の健全な発育」「食生活の乱れ」「生活習慣病の増加」等が上位に挙げられています。一方、関心のない理由としては、「食事や食生活に関心はあるが他のことで忙しい」という回答が半数近くを占めています。どう行動に結び付けていくかが重要な課題です。

2 健康の状況

(1) 基本健康診査の受診状況

■健康診査受診状況

	17年度		18年度	
	35歳以上40歳未満	40歳以上	35歳以上40歳未満	40歳以上
対象者数	1,163人	14,060人	1,215人	14,764人
受診者数	359人	6,260人	367人	7,020人
受診率	31.0%	44.5%	30.2%	47.5%

(健康づくり課)

生活習慣病の予防と疾病を早期に発見し治療につなげるため、基本健康診査を実施し、必要な方に対して栄養指導や保健指導を行っています。平成20年度からはメタボリックシンドロームに着目した特定健診・保健指導に移行し、受診勧奨、保健指導がさらに強化されます。

(2) メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）（※1）の状況

(健康診査の結果からみた状況)

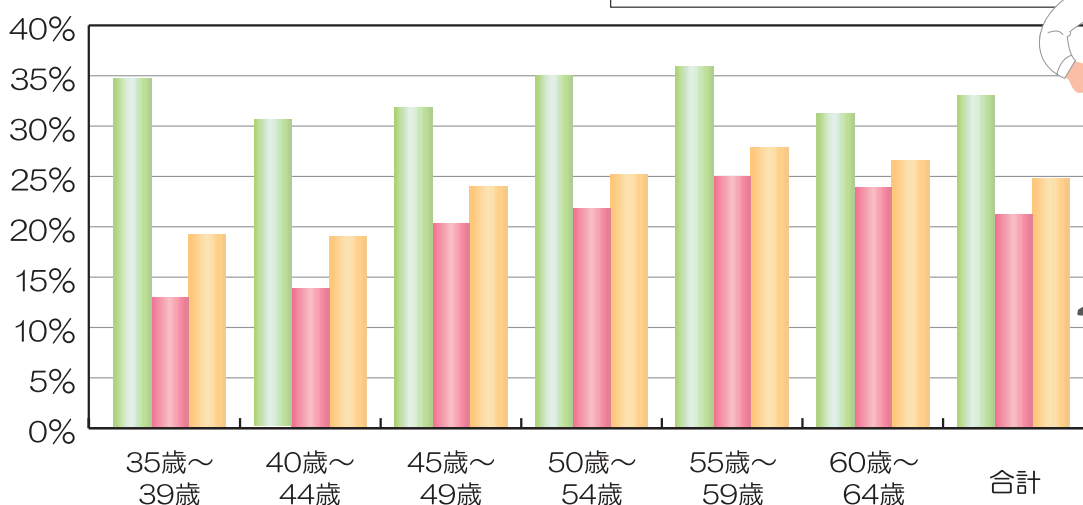
■平成17年度基本健康診査受診者数（65歳未満）

(人)

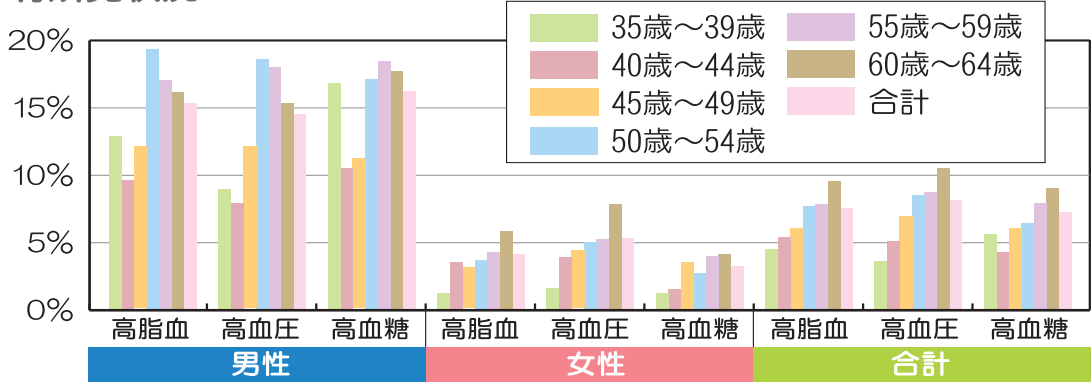
	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
男性	101	114	107	140	206	367	1,035
女性	258	259	227	404	553	639	2,340
合計	359	373	334	544	759	1,006	3,375

■平成17年度基本健康診査結果(65歳未満)

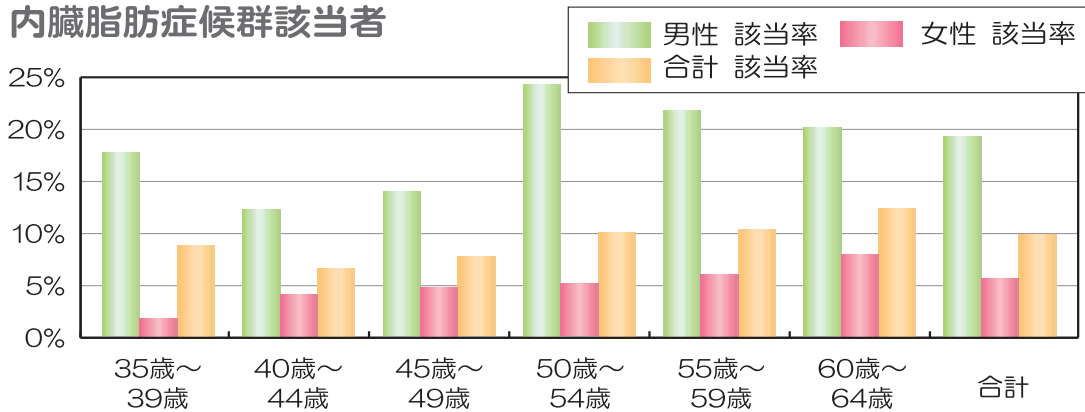
肥満状況（BMI ≥ 25）（※2）



有所見状況



内臓脂肪症候群該当者



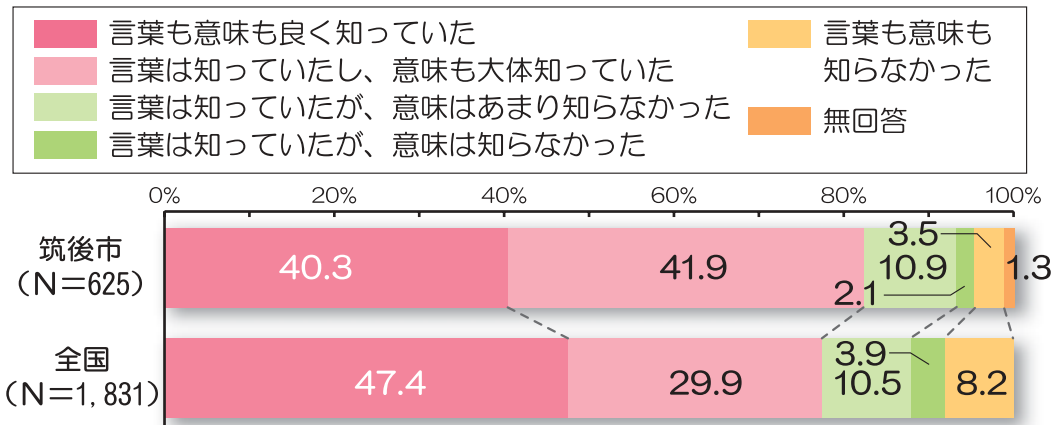
(H17 健康づくり課)

食生活の変化や運動不足などから、生活習慣病である心臓病や脳卒中、糖尿病などが増えています。日本人の死亡原因の3割をこれらの生活習慣病（がんを除く）が占めています。生活習慣病の発症には、肥満とそこから派生するメタボリックシンドロームが関係していることが多く、この状態が続くと自覚症状がなくても動脈硬化が急速に進んで血管に異常が生じ、心臓病や脳卒中等の発症リスクが高くなります。

バランスのとれた食生活などの生活習慣の改善を行うことにより病気発症リスクの低減を図ることが必要です。

(3) メタボリックシンドロームの認知度

「メタボリックシンドローム」という言葉や意味を知っていますか



(H19.8 筑後市食育に関するアンケート 健康づくり課)

「メタボリックシンドローム」という言葉は広く人々に浸透しており、言葉の認知度は高くなっています。生活習慣病の原因となる内臓脂肪症候群の理解度を高め、食生活の見直しや生活改善を自分でできるよう支援していくことが大切です。

※1 **メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）**

内臓脂肪型肥満（腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上）で高血圧・高血糖・高脂血のうち2つ以上が該当する場合をさします。

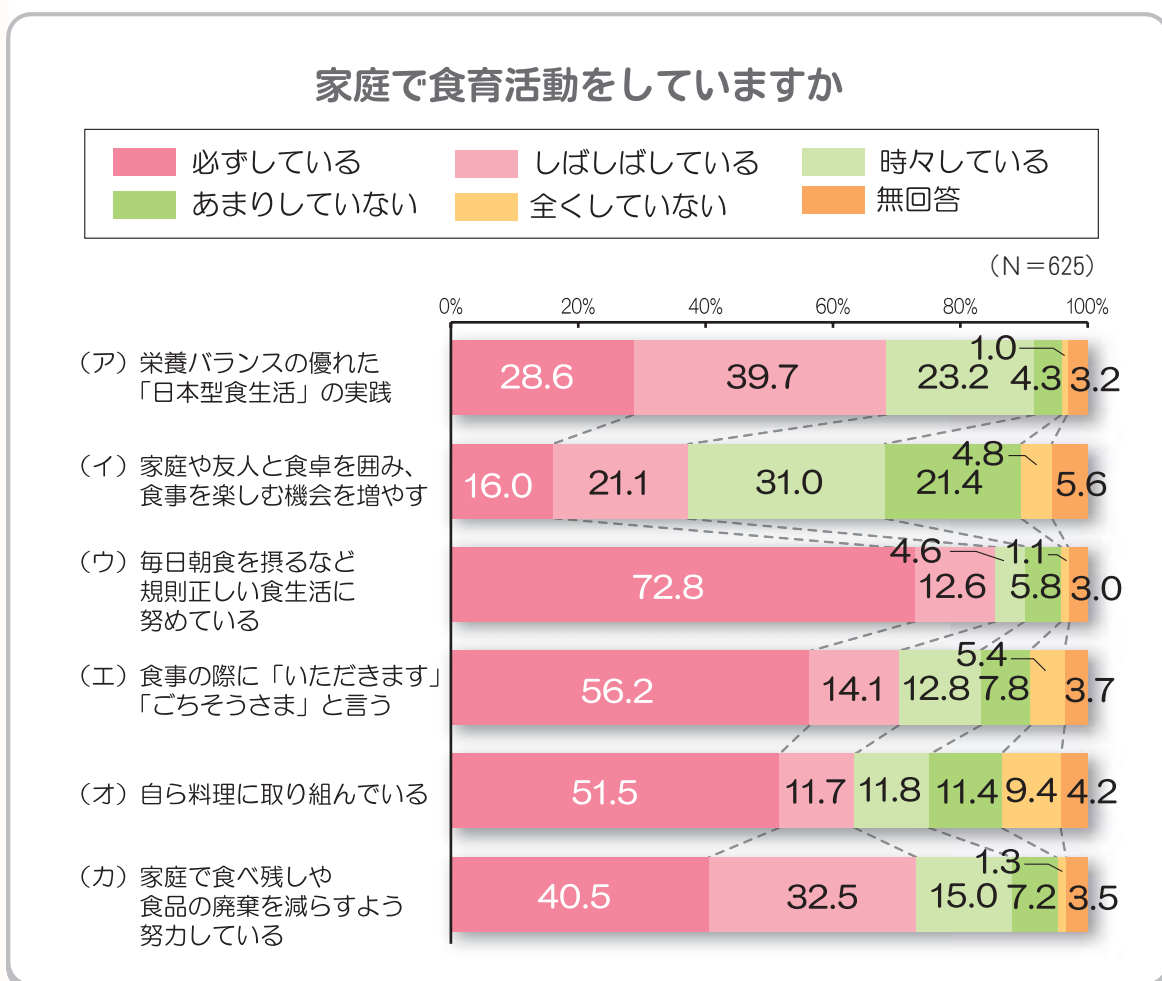
※2 **BMI**：肥満の判定に必要な体格指数で25以上が肥満に該当します。

$$BMI = \text{体重(kg)} \div \text{身長(m)} \div \text{身長(m)}$$



3 食生活

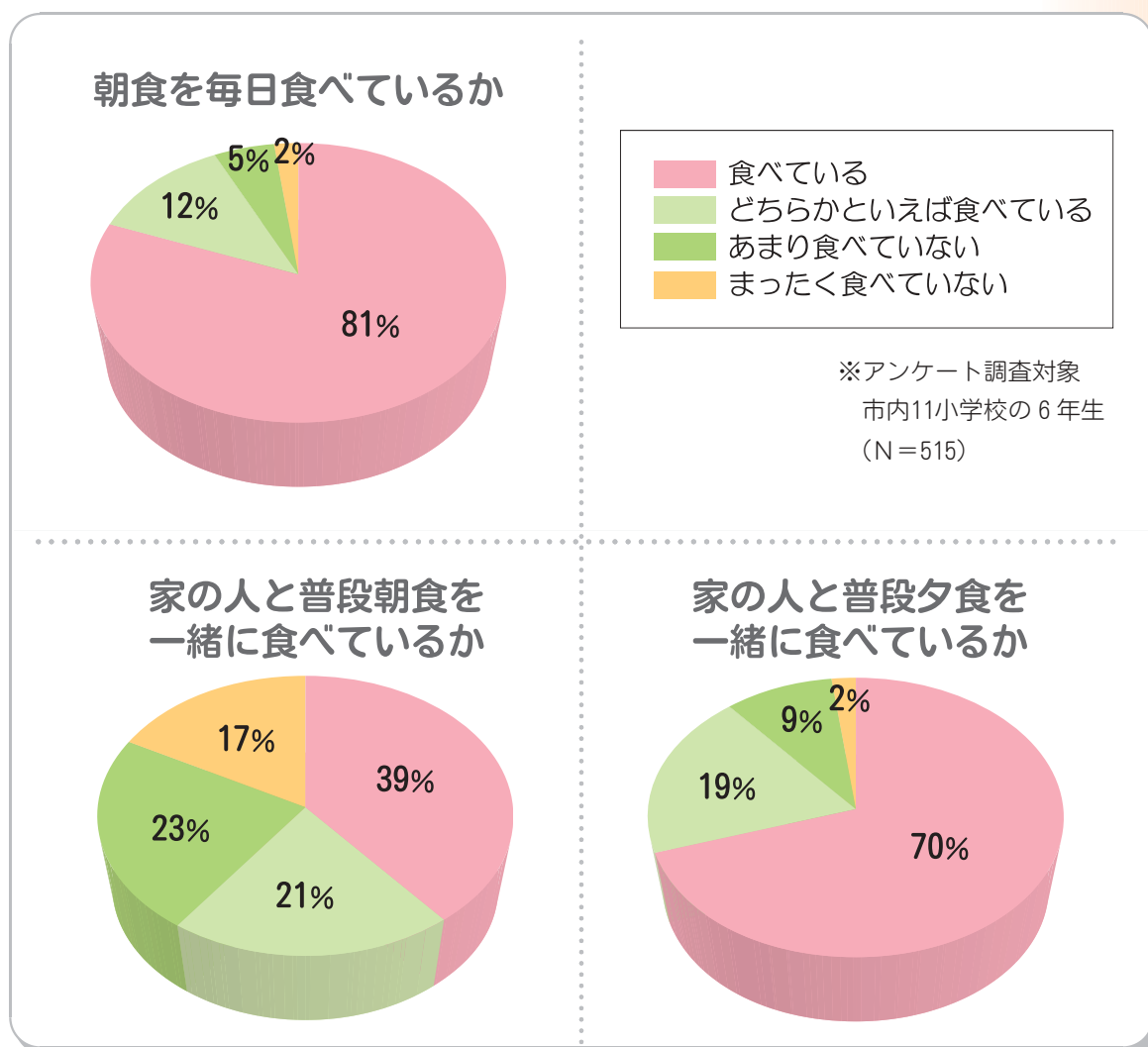
(1) 日ごろの食生活



(H19.8 筑後市食育に関するアンケート 健康づくり課)

毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めているかとの質問に対して「必ずしている」と答えた人の割合は72.8%となっていますが、若い年齢層ほどその割合が少なくなっています。とりわけ朝食の欠食は、肥満や生活習慣病を引き起こすリスクが高くなるといわれています。午前中のエネルギー供給が不十分となり、体調が悪くなるなどの問題点も指摘されており、バランスの取れた朝食を摂り、規則正しい食習慣を維持することが必要です。

(2) 子どもの食生活



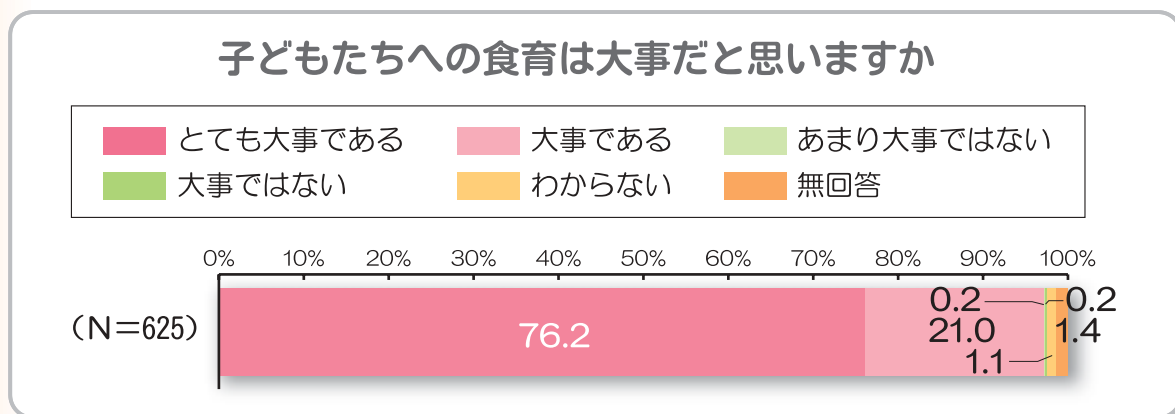
(H19.4 生活習慣調査 筑後市教育委員会)

朝食を「あまり食べていない」児童、「まったく食べていない」児童の割合は7%で、食べない理由として「時間がない」「食欲がない」「用意されていない」が挙げられています。朝食の欠食を始めとする生活リズムの乱れは、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。

また、食事は家族のコミュニケーションの場としても重要であり、家族がそろって食事することは、子どもの心の成長にとっても大切なことです。毎日の家庭生活のリズムを整え、規則正しい食生活を送ることは、家庭の中で実践していかなければなりません。関係機関と連携しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨し、各家庭への働きかけをしていくことが必要です。



(3) 子どもたちへの食育

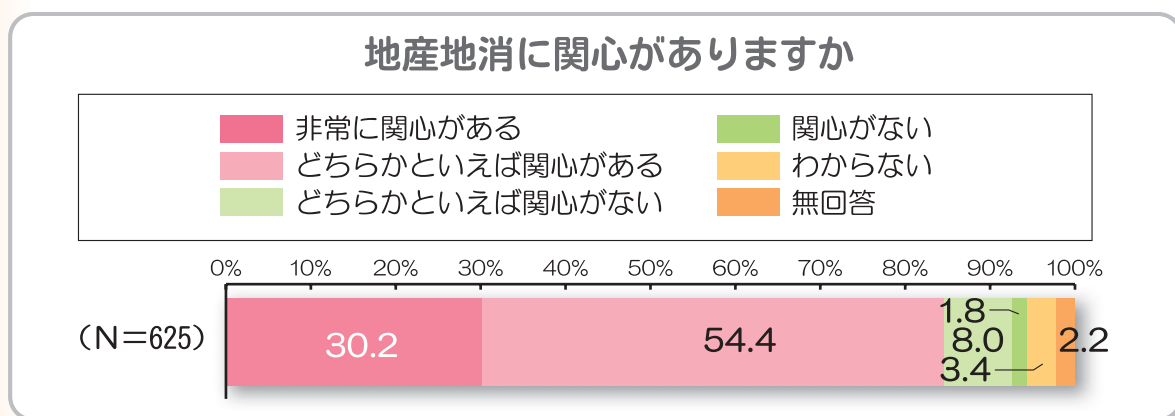


子どもの「食育」については、ほとんどの人が重要性を認識していることがわかります。年齢別にみると、20～30歳代の8割以上の方が「とても大事である」と回答しており、他の年齢層に比べて高い割合を示していることから、子育て世代の親が「食育」の重要性を認識していることがうかがえます。

また、子どもへの「食育」を行う場所として「家庭」と回答した方が85.4%となっており、家庭と学校、幼稚園、保護者団体などの関係機関が連携して推進を行う必要があります。

4 地産地消

(1) 地産地消への関心度



「地産地消」を推進するうえで必要なこととして「安心して新鮮なものの提供」が約9割（89.0%）を占めています。

また、「農業体験をしてみたい」人は6割（61.3%）を超え、そのうち、「家庭菜園で自家消費分を栽培したい」が45.6%で約半数を占めます。一方、「体験しなくてよい」と答えた人も32.6%あります。

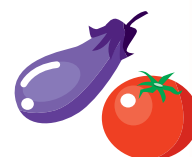


(2) 筑後市の主な農産物

■主要農産物（平成17年度 生産額1億円以上）

	作物等	生産額（百万円）	栽培面積等
1位	いちご	1,150	29ha
2位	米	1,080	950ha
3位	麦	680	1,130ha
4位	なし	530	69ha
5位	採卵鶏	510	171,750羽
6位	ぶどう	490	62ha
7位	茶	340	73ha
8位	トマト	320	11ha
9位	菊	310	8ha
10位	なす	290	11ha
11位	乳用牛	220	470頭
12位	大豆	200	386ha

（第53次福岡農林水産統計年報 農政課）



(3) 地場農産物の学校給食利用状況

■給食利用状況

年 度	種 別	年間総購入数量 (kg)	筑後市産購入数量 (kg)	利用率 (%)
平成17年度	野 菜	97,732.6	4,062.4	4.2
	果 樹	9,103.3	536.1	5.9
	畜 産	16,787.5	2,318.1	13.8
	麦・大豆加工品	10,223.8	4,486.6	43.9
	そ の 他	432.7	0.0	0.0
	計	134,279.9	11,403.2	8.5
平成18年度	野 菜	106,236.0	3,794.9	3.6
	果 樹	8,360.7	936.4	11.2
	畜 産	15,105.8	3,157.5	20.9
	麦・大豆加工品	12,449.5	1,513.0	12.2
	そ の 他	607.4	192.0	31.6
	計	142,759.4	9,593.8	6.7

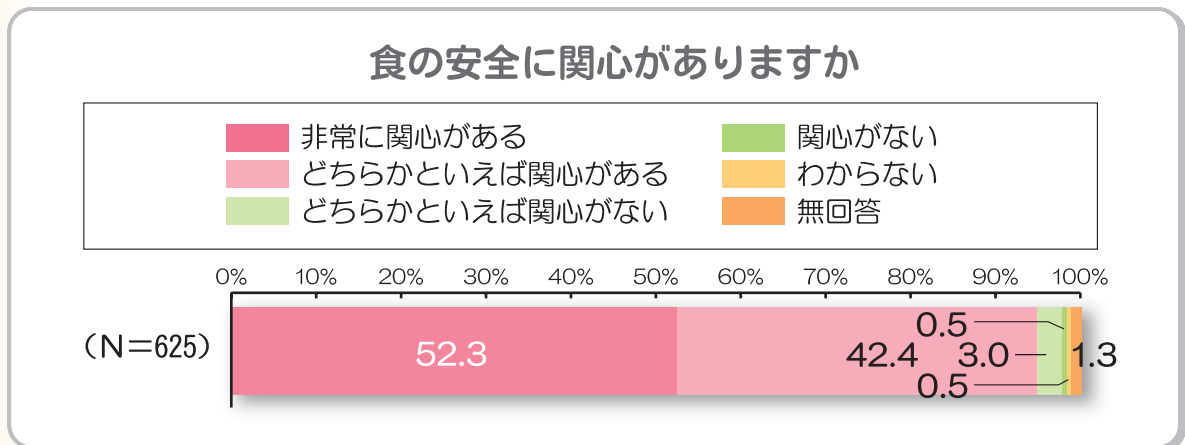
※学校給食会納入分を除く

（学校給食における地場産農林水産物利用状況等調査 農政課）

現在、「ちっごの日」として毎月1回部分的に学校給食へ筑後市産食材を導入していますが、学校給食を本格的にまかなえる農作物が少ないのが現状です。より一層、学校給食への筑後市産食材導入を拡大していく必要があります。

5 食の安全

(1) 食の安全への関心度



(H19.8 筑後市食育に関するアンケート 健康づくり課)

年齢別、居住地区別、世帯構成別にみても、すべての年齢層で9割以上の方が“関心がある”と回答しており、食の安全への関心の高さがわかります。

食の安全について、情報の提供などが必要です。

